

# 信州エクスターションシップにおける JA長野県グループの取り組みと 学生からの評価

JA長野開発機構 地域開発部 研究員



坂 知樹

## 1. はじめに

JA長野開発機構は学生たちの受け入れ側として、受け入れた学生に対してアンケート等の調査を行いましたので、その結果や、私が同行しての感想などから、学生からの評価をご報告させていただきます。

まず、そもそもなぜJAがエクスターションシッ

プに加わったのかと言うと、今回の取り組みにあたってさまざまな受け入れ先企業を探す一環で、一般企業セクター、行政セクター、農業セクターの3つから学生を受け入れようという運びになりました。そのうち農業セクターの受け入れ先として、JAグループが関わってきたという経緯があります。

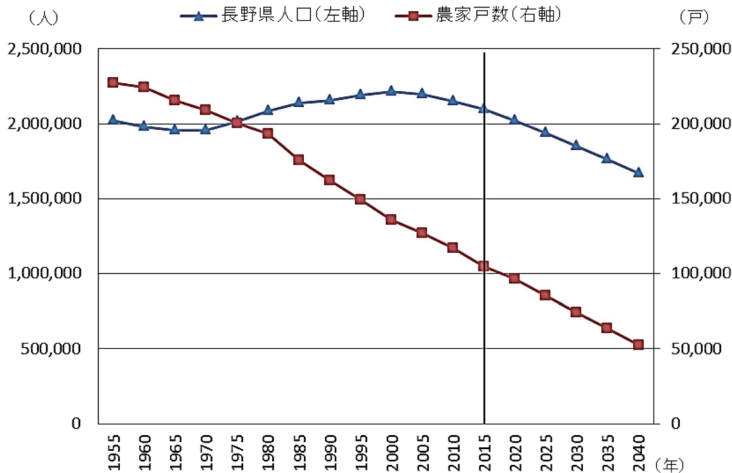
## 2. 取り組みの背景とプログラム

取り組みの背景としては、長野県に限らず、全国各地で人口が大きく減少しています。それに伴い、農家戸数も大きく減少しています（図1）。そうした中で、何か流れを止めるような取り組みができないかと考えました。

もうひとつの背景としては、生まれも育ちも首都圏の学生の多くは、就職も首都圏の、特に会社員や公務員を希望しているだろうという現状があります。そこで、JAGグループとしては、エクスターンシップの体験や経験を通して地方や農業、協同組合などに対する意識の変化を期待しました。就職は、エクスターンシップの本来の目的ではありませんが、受け入れ側としてはそうした点も期待しながら活動に参加しました。

信州エクスターンシップでは、参加学生4名

(図1) 長野県の人口と農家戸数の推移



注1)人口は総務省『国勢調査』より。2015年以降の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく。  
 2)農家戸数は農林水産省『農業センサス』より。2015年以降の推計値は、1955年から2015年までの年と農家戸数の関係を回帰分析して推計した。

(表1) JAグループが提供したプログラム

JAグリーン長野	JAながの	農協観光
JAについての講習		旅行資料の作成
リンゴ収穫作業体験	枝豆の選別作業体験	旅行企画の立案
Aコープでの業務体験	直売所での業務体験	カウンター業務の体験
流通施設の見学	卸売市場の見学	善光寺案内研修
農業法人の活動紹介	農産物流通の講習	顧客宅訪問
職員へのインタビュー		

を1チームとして、1企業・団体あたり2日間学生の受け入れを行いました。37名の参加学生は、1週間という期間中、1名あたり2カ所の企業・団体で研修に取り組みました。JAグループについては、JAグリーン長野、JAながの、農協観光の3団体が(表1)のプログラムを提供し、合計20名を受け入れました。

### 3. アンケート結果にみる イメージの向上

次に、参加学生20名へのアンケート結果を簡単に紹介します。

まず、「エクスタシシップになぜ参加しようと思いましたが?」という質問に対しては、「長野県に興味があったから」が最も多く、13名でした。次いで「農業やJAに興味があったから」が12名いました(次頁図2)。

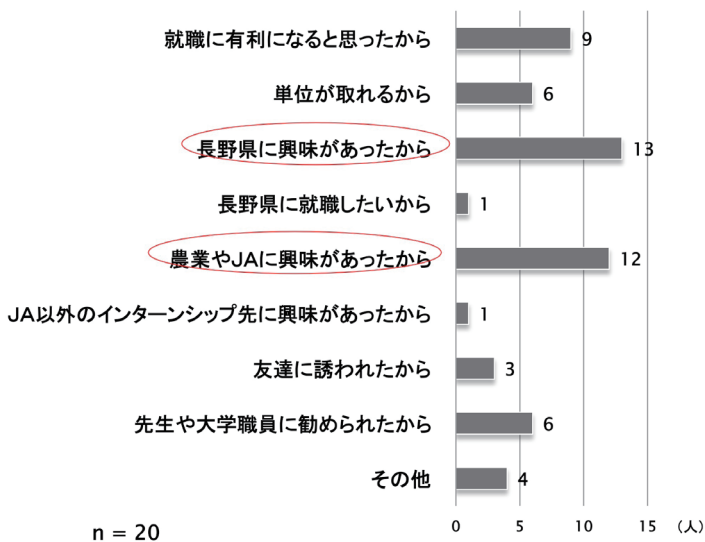
「研修を通じて農業のイメージは変わりました」

たか？」という質問に対しては、「良くなった」が14名、「少し良くなった」が6名です。

さらに「JAのイメージが変わりましたか？」という質問では、「良くなった」が16名、「少し良くなった」が4名です。参加者全員が、農業やJAのイメージが良くなったという結果となっています（図3）。

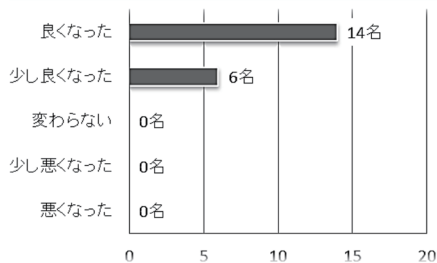
農業やJAのイメージが変わった理由について自由記述で回答してもらったところ、最も多かったのは「地域とのつながりを感じた」で、8件ありました。具体的な記述を一部紹介しますと、「たくさん地域に密着した仕事をされていると感じた」「農家の人々の温かみや農協とのつながりを学ぶ」ことができたといった回答が目立ちました。

（図2）信州エクスターンシップ参加理由（複数選択）

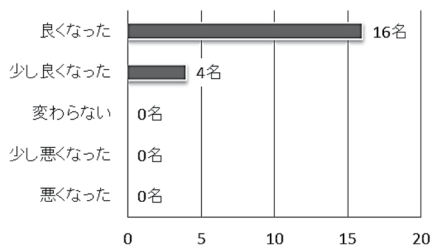


(図3) 参加学生の農業・JAに対するイメージの変化

Q. 研修を通じて農業のイメージは変わりましたか？

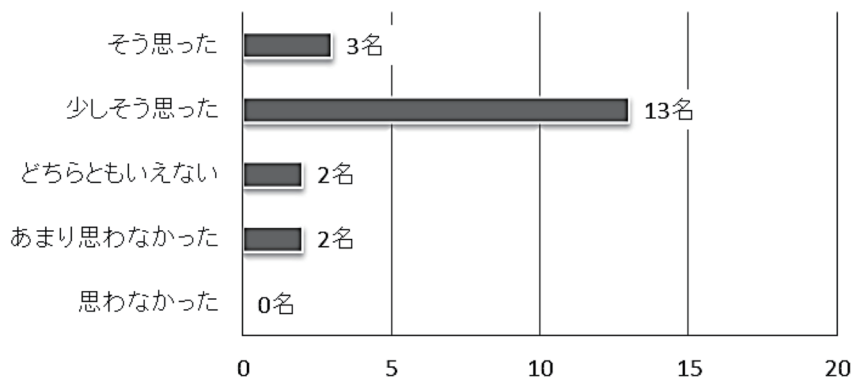


Q. 研修を通じてJAのイメージは変わりましたか？



(図4) 参加学生の農業に対する意識

Q. 研修を通じて、JAなど農業に関わる仕事に就職したり、あなた自身が農業をしたいと思いますか？



## 4. 農業や長野県に対する意識

「研修を通じて、JAなど農業に関わる仕事に就職したり、あなた自身が農業をしたいと思いましたが？」という質問に対しては、「そう思った」が3名、「少しそう思った」が13名、計16名が肯定的な意見でした。こうした研修を通じて、就職の意識の変化、農業分野への関心が高まったということが示唆されたこととなります（前頁図4）。

具体的な感想を紹介すると、「農業にかなり興味を持った」「東京で平日働いて土日休みのOLがいいかわからないと思っていたけれど、人と人とのかわりが密にあるJAなどの仕事も楽しそうだと感じた」など、働き方のイメージの変化が少し起こったようです。研修を通じて、われわれJAグループの取り組みも少しPRできたのではないかとも思います。

「現時点での就職希望場所は？」について、「長野県」という回答は、20名中3名にとどまりました。ほかに「首都圏」が8名、「全国・その他地域・未定」が9名です。そこで、長野県を希望した人はどんな人だったのかを見ていくと、実は長野県出身者が2名、「首都圏か長野県か関西」という広域的な回答が1名でした。数日長野で過ごしたものの、これをもって明確に長野県を希望するという結果には至らなかったということですので、取り組みに関してもう一工夫が必要かなという状況です。

## 5. 取り組みの効果①

取り組みの効果については、「職業体験を長野県で行い、JAグループが参加する意味があったのか？」という点を、まず検証したいと思います。そこで、エクスターンシップ事業に参加した理由について、それぞれの回答の相

関分析をしました(表2)。

相関係数が最も高かったのは、「単位が取れるから」と「就職に有利になると思ったから」で、相関係数は0.5。一番実利的な理由が上りました。次いで「農業やJAに興味があったから」と「長野県に興味があったから」で、0.47でした。このように参加学生は、長野県と農業・JA両方に興味があり、かつ、回答数も多かったことから(図2)、受け入れ側としてはエクスターンシップ事業の募集そのものに貢献できたという意味で、入口効果があったのではないかと思います。

## 6. 取り組みの効果②

2点目は、自由記述全般において、20名中14名(29件)に、JAの仕事に農家や組合員、地域との「つながり」や「思い」を感じたという趣旨の回答が見られたことです。

(表2) 信州エクスターンシップ参加理由の相関分析

	就職に有利になると思ったから	単位が取れるから	長野県に興味があったから	長野県に就職したいから	農業やJAに興味があったから	JA以外のインターンシップ先に興味があったから	友達に誘われたから	先生や大学職員に勧められたから	その他
就職に有利になると思ったから	1								
単位が取れるから	0.5044	1							
長野県に興味があったから	-0.179	0.2516	1						
長野県に就職したいから	-0.208	-0.15	-0.313	1					
農業やJAに興味があったから	-0.082	-0.134	0.4708	0.1873	1				
JA以外のインターンシップ先に興味があったから	0.2536	-0.15	0.1683	-0.053	0.1873	1			
友達に誘われたから	-0.099	0.0306	0.0147	-0.096	0.0572	-0.096	1		
先生や大学職員に勧められたから	0.0658	-0.19	-0.206	-0.15	-0.134	-0.15	-0.275	1	
その他	0.3015	-0.055	-0.157	-0.115	-0.102	0.4588	-0.21	-0.055	1

この理由を推察しますと、地域に根ざしたJAの事業や活動への理解と共感が得られたのではないかと思います。特に、首都圏の学生が非常に多かったので、農業や地方に触れたことのない学生が今回の経験を通じて、大きなインパクトを得ることができたのではないかと思います。例えばある学生の自由記述を追っていくと、「農業やJAのイメージが変化した理由」については、「身近にあるJAのはたらきや業務内容について、部署の役割や活動目的について学ぶことができました」とあります。

「職員への印象」としては、「営利目的ではなく、お話を聞いた皆さんが全員組合員のことを思い活動していることに感動しました」という理解と共感が生まれました。最後の「働き方のイメージが変化した理由」については、「メーカーやインフラ業界を希望し、安定を求めていましたが、人のため、社会のために働くことの

良さを実感し新たな分野への興味が湧いてきました」という回答で、働き方にまで変化を及ぼしたという点で出口効果もあつたのではないかと思います。

もちろんこうした学生ばかりではありませんし、すべての学生にきれいな変化が起こったわけではありませんが、エクスターンシップ事業の大きな効果が現れたのではないかと思われます。

